

Press Release 2020.06.25

# ドレス・コード? —— 着る人たちのゲーム

## DRESS CODE: Are You Playing Fashion?

服を着るという行為は、私たちが社会生活を送るうえで欠かせない文化的な営みのひとつです。また、ファッションは「着る」だけでなく「視る／視られる」ものです。特定の文化や社会、グループで通用するコードがあり、そこから駆け引きあるいはゲームにも似た自己と他者とのコミュニケーションが生まれています。インターネットと SNS の普及によって、誰もが自らの装いを自由に発信できるようになった現在、私たちとファッションのかかわり方もまた新しい局面を迎えています。

本展では、京都服飾文化研究財団（KCI）が収蔵する衣装コレクションを中心に、ファッションとアートのほか、映画やマンガなどに描かれた衣装も視野に入れながら、300点を超える作品で構成し、現代社会における新たな〈ドレス・コード〉、私たちの装いの実践を、13のキーワードで見つめ直します。

本展は2019年の京都国立近代美術館、熊本市現代美術館の開催を経て、いよいよ東京での開催となります。東京展では当館の全展示室（3、4階）を使用し、東京展独自の展示空間を計画しています。東京展で初出品する作品もご覧いただけます。

つきましては、本展を貴媒体でぜひご紹介いただきたく、ご協力のほどお願い申し上げます。



京都国立近代美術館 展示風景 © 京都服飾文化研究財団 福永一夫撮影



熊本市現代美術館 展示風景 © 熊本市現代美術館

### 【開催概要】

展覧会名: ドレス・コード? —— 着る人たちのゲーム  
 会期: 2020年7月4日 [土] — 8月30日 [日]  
 会場: 東京オペラシティ アートギャラリー  
 開館時間: 11:00 — 19:00 (最終入場は18:30まで) \*事前予約制  
 休館日: 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)、8月2日 [日] 全館休館日  
 入場料: 一般1,200 (1,000) 円 / 大・高生800 (600) 円 / 中学生以下無料

- \* 同時開催「project N 79 糸川ゆりえ」の入場料を含みます。
- \* ( ) 内は各種割引料金。但し団体でのご入場は当面の間お断りし、団体割引は適用されません。
- \* 障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。
- \* 割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)  
 ウェブサイト: <https://www.operacity.jp/ag/>  
 特設サイト: <https://www.kci.or.jp/dc>  
 主催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団、  
 公益財団法人 京都服飾文化研究財団  
 協賛: NTT 都市開発株式会社  
 特別協力: 株式会社ワコール  
 企画協力: 京都国立近代美術館  
 協力: KLM オランダ航空、株式会社七彩、センクシア株式会社、  
 ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社  
 助成: モンドリアン財団



展覧会ポスター  
 COMME des GARÇONS (川久保玲) 2018年春夏

**【出品予定】**

ALAIÀ, ANREALAGE, ASEDONCLÖUD, beautiful people, Burberry, CHANEL, CHRISTIAN DADA, COMME des GARÇONS, DIOR, DIOR HOMME, FENDI, GIORGIO ARMANI, GUCCI, HELMUT LANG, ISSEY MIYAKE MEN, JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS, KOCHÉ, LOUIS VUITTON, ジェフ・クーンズ x LOUIS VUITTON, MOSCHINO, noir kei ninomiya, Paul Smith, Thom Browne, UNIQLO and J.W. ANDERSON, Valentino, Vetements, VIKTOR & ROLF, Vivienne Westwood, Yohji Yamamoto, YVES SAINT LAURENT ほか

青山悟、石内都、アンディ・ウォーホル、ハンス・エイケルブーム、坂本眞一、チェルフィッチュ、都築響一、マームとジブシー、ミケランジェロ・ピストレット、元田敬三、森村泰昌、ローズマリー・トロッケル ほか

**【本展の見どころ】**

**1. ファッションを通じて人や社会の関係性を問いかける展覧会**

ファッションは、単に流行の服やスタイルを意味するだけではありません。ある時代や地域、文化や慣習と結びついた服装全般を含めることができます。そこには、暗黙の〈ドレス・コード〉ともいえるさまざまな形の規範やルールが存在し、しばしば人々の行動や思考にも影響を与えるのです。本展では、そうした服装のコードをめぐって繰り広げられる私たちの装いの実践、着る人とそれを視る人との関係性、さらには衣服を通じた私たちと社会とのつながりについて問い直します。



GUCCI (アレックスandro・ミケレ) 2018年秋冬  
京都服飾文化研究財団所蔵 畠山崇撮影



Anrealage (森永邦彦) 2011年秋冬  
©ANREALAGE CO., LTD



都築響一《ニッポンの洋服》より《異色肌》2017年  
撮影:ラマスキー ©ラマスキー



元田敬三 《御意見無用》2016-2018年  
©Keizo Motoda, courtesy of MEM, Tokyo

**2. ファッションのさまざまな実例を紹介**

学校や職場で制服やスーツを着る、これはわかりやすい服装のコードです。一方で、〈ドレス・コード〉は時に破られたり、置き換えられたり、別のコードが生まれることもあります。トレンチ・コートやデニムはかつて軍服や労働着でしたが、今ではそのコードは失われ、おしゃれのアイテムのひとつとなっています。自己表現からあえてコードを逸脱した個性的なファッションに身を包む人もいます。男性のスーツや制服から、シャネル・スーツなどの普遍性を備えたスタイルやアイテム、グッチやルイ・ヴィトン、コム デ ギャルソン、ヴェトモンといった人気ブランドが手掛ける最新のスタイルまで、ファッションに見られるさまざまな装いの実例を紹介します。



Rogers Peet Company スーツ 1900年代  
京都服飾文化研究財団所蔵 畠山崇撮影



Vetements (デムナ・ヴァザリア) デイ・アンサンブル「Miss No. 5」2017年秋冬  
京都服飾文化研究財団所蔵 畠山崇撮影



Vetements (デムナ・ヴァザリア) ショー・ビデオ 2017年秋冬  
Courtesy of Vetements



beautiful people (熊切秀典) トレンチ・コート  
2017年秋冬  
©beautiful people

### 3. 着ることの（不）自由さを伝える現代美術作品を多数展示

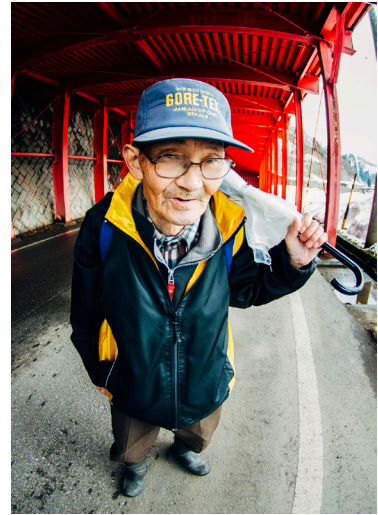
私たちは、衣服を通じて自分の嗜好や属性を表明することもあれば、コスプレのように別の人格を演じることもできます。着ることは「何かか」になる行為といえるでしょう。たとえば森村泰昌が扮する人物において衣服は重要な役割を担っています。ハンス・エイケルboomによる大量のストリート・スナップはファッションにおける他者へ/からの眼差しを、石内都が撮る古着の写真は着用者の人格や記憶を、それぞれ浮き彫りにします。さらに現代美術作家による多彩な表現の実践を取り上げ、着ることの意味を深く掘り下げていきます。



石内都 《Frida Love and Pain #50》  
2012/2016年 株式会社 資生堂蔵  
©Ishuchi Miyako



ハンス・エイケルboom  
《フォト・ノート 1992-2019》  
1992-2019年 ©Hans Eijkelboom

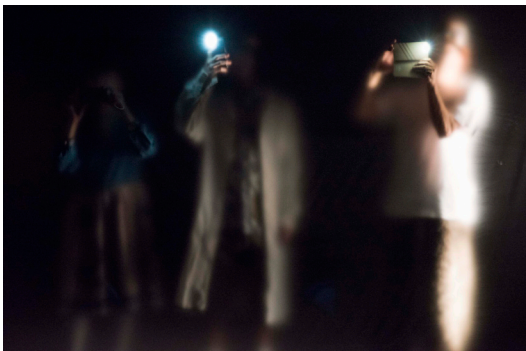


都築響一 《ニッポンの洋服》より  
《鶴と亀》 写真提供:小林兄弟  
2013-2019年 © 鶴と亀

### 4. キャラクターと服装のかかわりを演劇や映画、マンガを通して考察

服はファッションのみならず、さまざまな分野と広くかかわりあいを持っています。文学や演劇、映画、マンガなどでは、服が登場人物（キャラクター）の性格や行動、感情を表す要素となるなど、物語を進める重要な役割を演じます。そのことは決してフィクション（虚構）の世界にとどまらず、ヴァーチャル（仮想世界）が日常化した現代においても、リアリティを強く感じさせます。映画ポスターの展示のほか、演劇カンパニーのマームとジプシー、チェルフィッチュによるインスタレーションなどを通して、服とキャラクターについて考えます。

また、KCIが収蔵する18世紀の衣装を題材に、18世紀フランス革命の死刑執行人サンソン家を描いた坂本眞一氏のマンガ『イノサン』『イノサン Rouge』とのコラボレーションを行います。フランス革命期の衣装と登場人物を通じて、現実と非現実が交差する特別な空間を創造します。



チェルフィッチュ 《The Fiction Over the Curtains》2017-2018年 precog 蔵  
プロダクションショット 撮影:加藤甫 © chelfitsch, courtesy of precog



マームとジプシー 《ひびの、A to Z》  
2019年 ©Mum & Gypsy, photo by Sayuki Inoue



ドレス（ロブ・アラ・フランセーズ）  
1770年代後半（素材1750-60年代）  
京都服飾文化研究財団蔵 広川泰士撮影

## 5. 東京展のみの展開

本展は2019年8月の京都国立近代美術館、12月の熊本市現代美術館を経て、いよいよ東京での開催となります。東京オペラシティアートギャラリーのすべての展示室（3階、4階）を使用し、大規模な展示空間を計画しています。

東京展ではノワール ケイ ニノミヤ（2020年春夏）やコム デ ギャルソン（2016-17年秋冬）の衣装作品が初出品となる予定です。また、森村泰昌、青山悟、ハンス・エイケルブーム、マームとジブシーなどの作品も、東京展独自の展示方法を予定しています。



noir kei ninomiya 2020年春夏  
©COMME des GARÇONS Co. Ltd



青山悟《News From Nowhere(Bjork)》2017年  
©Aoyama Satoru, courtesy of Mizuma Art Gallery



マームとジブシー《ひびの、A to Z》2019年  
京都国立近代美術館での展示風景 © 京都服飾文化研究財団 福永一夫撮影

「ドレス・コード? —— 着る人たちのゲーム」は13のキーワードによって構成されます。



■最新の情報は随時当館ウェブサイト、SNS および特設サイトでお知らせいたします。

■「ドレス・コード? —— 着る人たちのゲーム」リリースに関するお問い合わせ  
東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】 福島 【広報担当】 市川  
Tel:03-5353-0756 / Fax:03-5353-0776 / Email:ag-press@toccf.com